

## 平成 30 年度第 1 回ピースツーリズム推進懇談会 会議要旨

### 1 開催日時

平成 30 年 4 月 26 日(木)10:00~12:00

### 2 開催場所

広島市役所本庁舎 14 階 第 7 会議室 (広島市中区国泰寺町一丁目 6 番 34 号)

### 3 出席者

懇談会構成員

団体名・役職	氏名
広島県原爆被害者団体協議会 事務局長	前田 耕一郎
広島市立大学広島平和研究所 副所長	水本 和実
特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima 理事長	渡部 朋子
特定非営利活動法人ひろしまジン大学 代表理事	平尾 順平
被爆体験証言者 (平和記念資料館元館長、元国際平和担当理事)	原田 浩
一般社団法人日本旅行業協会中四国事務局 事務局長	辻 孝和
一般社団法人ひろしま通訳・ガイド協会 会長	古谷 章子
広島市市民局国際平和推進部 部長	津村 浩
広島市経済観光局観光政策部 部長	阪谷 幸春

(計 9 名、欠席なし)

事務局

観光プロモーション担当課長、課長補佐、主事 (計 3 名)

### 4 議題

(1) ピースツーリズムを進化させていくための取組について

- ① アンケート調査 (結果報告)
- ② ルート周遊体験調査

(2) 懇談会意見・提案への今後の対応について

(3) その他意見交換

### 5 公開・非公開の別

公開

### 6 傍聴人の人数

3 名

### 7 会議資料名

資料 ピースツーリズム推進懇談会 (平成 30 年度第 1 回)

別紙 1 外国人旅行者対象アンケート調査

別紙 2 意見・提案一覧

### 8 発言の要旨

(原田座長) 昨年度は各委員のご協力により成果をとりまとめ、市長に報告させていただいた。

これを踏まえ、新年度も懇談会を開催していくことになった。また 1 年間皆さんのご協力をいただきとりまとめていきたい。

2 月 28 日に市長に報告した際、出席できなかった委員に対し、阪谷委員からご報告をお願い

したい。

(阪谷委員) 先般皆様にお越しいただき、市長にとりまとめの報告をさせていただいた。市長は、ピースツーリズムについて皆様が正面から取り組んでいただいたことに感謝したいとのことだった。私を感じた市長の発言の主なポイントは2つ。まず、意見・提案いただいた約 110 項目について、庁内関係部局が連携してしっかりと取り組んでいきたい、在職中はきちんと予算措置をしながらやっていきたいということ。もう1つは、平和と関連する文化の発信についても連携してしっかりとやっていきたいということ。それ以外にも、平和記念資料館（以下「資料館」という）を始め市の施設の充実とともに、追悼祈念館など国の施設とも連携しながら、平和についてしっかりと取り組んでいきたい、まさにこのピースツーリズムを一つの起点として広島を強く発信していきたいという趣旨のことを市長は話していた。ぜひ、今年度も皆様のお力添えをいただきながら、ピースツーリズムを推進していきたい。

《事務局から資料に基づき説明》

#### ◆ピースツーリズムを進化させていくための取組について

##### 1 外国人旅行者対象アンケート調査結果について

(前田委員) よくまとめられていると思う。ただ、昨年度アンケート内容を見た時には気づいていなかったことがあった。例えば、Q1 に広島に旅行に来た目的は何かという問いがあり、これは当然聞くべきだが、広島あるいは日本を訪れたきっかけは何だったのかという問いもあればよかった。平和について知りたいとか、日本のことをもっと知りたいなど色々な観点があっただろう。これとは少し異なる観点のことを知りたかったと、これを見て思った。広島に来たきっかけは、学校で原爆について習ったからだ、それで興味を持ったなど。オーストラリアからの来訪が多いのは、資料館にいて何となく思っていた感想と合致はしているのだが、なぜオーストラリアからが多いのだろう。飛行機が直接広島に来ているわけでもなく、関空に格安航空が来てはいるが、なぜそこからたくさんオーストラリア人が来るのだろうかと考えたとき、そのきっかけが何か知りたいと思った。別紙2で意見・提案をまとめていただいている、これを庁内で説明するとのことだが、それぞれの意見について、どれだけの人が言っているなどボリュームが分かるとよりよいのではないかな。あるいは、それを受け止める側として、このことは少し重めに考えた方がよいのではないかな、このことはそういう意見もあったと紹介する程度でよいのではないかななど、受け止めの軽重も分かるようにするとよいのではないかな。

(渡部委員) オーストラリア人が多いのは、3日間レストハウスで調査を行った時に、例えば大きなクルーズ船が来ていたからだとか、そういう理由はなかったのだろうか。調査結果を見ると、アジアからの来訪が非常に少ない。アジアは、韓国、台湾、シンガポール、マレーシアのみである。中国人がいない。中国人観光客の来る目的とも関係しているのだろうか。どのように観光プロモーションしているかということもあるかもしれない。広島が平和都市であるならば、アジアの国々からたくさんの人達に来ていただけるようにすることを念頭に置いてピースツーリズムを考えなければならないのではないかな。また、調査結果を見て、「情報が欲しい」「人に会いたい」「体験型がよい」という要望がはっきり出ていると感じた。

市立大学の平和インターンシップの取り組みは非常によいのだが、今の状態で回るのか、そ

れとも誰かガイドが付いて回るのかで、学生の反応は全然違う。そこをもう少し考える必要があるのではないか。本川小学校平和資料館について、土曜日のため敷地外から外観を見るだけというのでは意味がない。市の観光政策部の人が鍵を預かって見せることはできないのでろうか。残念である。中を見てこそ意味がある。せっかく学生や海外の人たちに歩いていただいでご意見をいただくのであれば、ご意見をしっかり受け止められるような環境整備は必要ではないか。

(辻委員) アンケート調査をどのような方法で行ったのかを知りたい。中国人観光客は広島に来ていると思う。中国語を話せる調査員がいたのかどうかによっても違う。英語で調査をしたら、英語を話せる人しか答えられない。調査方法によって、理解が違ってくる。

(事務局) アンケート調査は委託会社の英語ができるスタッフによる対面の調査を行った。中国などアジアの方が少ない点に関しては、別紙1にあるとおり、中国やベトナムの方は団体旅行で来ていたため、今回の設問が多いアンケートにはご協力いただけなかった。個人旅行で来られて、レストハウスで休憩される方、観光案内を求めて来られた方にアンケートを行ったことから、欧米の方に偏る結果となった。

(渡部委員) 時間的制約があって団体旅行で来られている中国やベトナムの方から回答を得られなかったのは、もったいないアンケートの取り方だと思う。アンケートの取り方がよくなかったら、それに基づく積み上げの議論はできない。次回期待しているので、もう少しよいアンケートの取り方をお願いしたい。

(事務局) 本川小学校平和資料館の見学の件については、調整しようと思っているのだが、まだ結果が得られていないので、このような書き方になった。

(古谷委員) オーストラリア人が多い件についてだが、昨日 20 人を案内した中で、2 名がブラジル人、2 名がアメリカ人、2 名がフランス人で、他はすべてオーストラリア人だった。その理由としては、オーストラリアと日本は時差が無く体に優しいことがあげられる。また、12~2 月に来られる方は、オーストラリアは夏だが日本は冬なので、スキーやスノーボードをしに日本に来ている。この時期は航空運賃も安いそうである。白馬やニセコの雪質はとてもよい。ニセコにはオーストラリア人が施設を運営していて、情報発信も上手にできている。アジアの方が少ないことは、体験的にも感じている。個人的な見解だが、鳥居は日本の軍国主義を想起させるものではないだろうか。シンガポールの方から、アメリカに留学したいという将来の希望が戦争が始まり全て打ち砕かれて、日本に対する遺恨が残っているという話をきいた。神社というのはあまり魅力がないのかもしれない。あと、中国系の方は買い物が好きなので、大阪あたりでしっかり時間とお金を使うのではないか。そのようなことを実際の体験から感じる。

外国人によるルート周遊において誰に巡ってもらうかについて、JET プラグラムで日本に英語を教えにきている外国人を推薦する。知的レベルが高く、日本についてある程度分かっている、広島で見聞したことを学生や教師にも伝えてくれると思う。

(水本委員) アンケート結果をみて、皆さん真面目な気持ちで来られているのだなと思った。ピースツーリズムをうまく提供すれば、大勢の方がこれに応じてくれるのではないかという印象を持った。ピースツーリズムの基本的な考え方は間違っていないだろうと思う。

ルートを提案はしたが、53 カ所挙げた平和関連施設等をどう組み合わせるかは、最終的には個々の旅行者にまかせてよいと思う。提案ルートを実際に回ろうと思ったら、かなり複雑で

あり、シンプルにして示すことが必要ではないか。一目で分かるような簡単なバージョンを示し、あとは市民から自分が回った「私のピースツーリズムコース」というものの提案を募集するというのもできるのではないか。

(平尾委員) アンケート結果について、そもそも平和記念公園のレストハウスを訪れている方への調査なので、「平和について興味はある」という前提になるのではないか。広島市全体の観光政策にも影響すると思うが、そもそも平和関連施設を訪れていない人達に訪れてもらうのはどうすればよいかという政策のあり方と、訪れている人達にもっと長く滞在してもらうにはどうした場合とで、アンケートの取り方は違うだろうと思う。今回ここを訪れている人に聞いたということは、ここに+αでどんなコンテンツがあったらよいかということをも前提にアンケートをとったのであり、今後アジアを伸ばしていこうというよりは、現状来ている方々にもっと充実した広島滞在を送っていただくためのピースツーリズムではないかと理解している。サイトのイメージが出てきたので、最低限のものができたら、早くモニターツアーなどトライアルを実施して、バグ修正もしつつ、どんどん使っていただき、その経過を懇談会の場にフィードバックしていただきながら、随時形を変えていくようなことができればよいと思う。じっくり話すことも大事だが、早く形にして使っていただきながらバージョンをどんどん上げていくという施策がこれからはよいのではないか。

(辻委員) アンケートによって、分かっていたことが確認できたと思う。訪れている場所が3カ所程度に集中していて、ピースツーリズムによりもっと広く色々な場所の実相を見ていただきながら滞在を延ばそうということだったので、推測していたとおりの結果が出ていると思う。ルートについて、自転車のルートは難しい場所があったので、もう一度見直して修正しないと、調査をしても難しいという結果になると思う。ピースツーリズムは市民が作るものが大切であるが、外国人ばかりで市民に見てもらって観点が抜けているので、受け入れる市民からのこのようなものがあるという私のピースツーリズムということを加味していくことが重要ではないか。昨年度から、懇談会でやっていることが、外に出ないといけないという意見があった。水本委員の意見はとても大切だと思った。

(津村委員) アンケートにおいて、既にレストハウスに来られている方からの聞き取りで、よかったところ、友人・知人に勧めたいところも平和記念公園、資料館という意見が多く、現状確認ができてよかったと思うのと同時に、資料館を所管している平和推進課としては身の引き締まる思いである。アジアからは団体旅行が多かったとのことだが、その声を知りたい。欧米の方とは受け止め方が違うのではないか。欧米の中でも、例年アメリカからの来訪が一番多いのではと思うが、今回の回答ではアメリカが少ないのはなぜだろうか。オーストラリアについて、ウインターリゾートに来られる方が、北海道や長野に行かれて、さらに広島まで来ていただいているのはありがたいことだと思う。

(阪谷委員) ピースツーリズムに興味があるという方が8割いたということは重要だと思う。Q15の、地域の人達との交流を期待するという声について、ピースツーリズムを行ううえでどのように応えるかということとあわせて、Q15の欄にある欧米の来訪者から原爆投下について非難しないのかという質問を受けたとの記述について、これをどう受けとめながら、どうピースツーリズムを進めていけばよいのだろうかということを感じた。

平成28年の広島への外国人観光客は117万人余りいる内、欧米系が65%、アジア系が35%

となっている。一番多いのはアメリカだが、中国からも 10 万人以上と相当数来ている。欧米系が 65%というのとは全国の傾向と逆パターンとなっており、全国の傾向は欧米系が 35%と広島が特異な中で、アジアから広島を見に来ていただくことはしないのかということそうではない。当然アジアからも多くの方々に来ていただき、被爆の実相を見て平和について考えていただきたい。その時に重要なのは、平和について強い思いがある人、そこまでではない人と、色々な人がおられるので、いずれの方に対しても、平和についての関心が少し弱い人でも広島に来ることで意識の転換ができたり、思いが強い人は広島に来てもっと思いを強くされて平和について取り組んでいただけるなど、きっかけを作ることができたらと思う。

(原田座長) 平尾委員がされている広島駅での外国人観光客への案内に参加している中国語の専門の方からは、中国人があまり来ず残念だ、もっと来ていただけるような施策が必要ではないかとの意見をいただいた。

タクシー運転手からは、外国人はあまりタクシーを使わないそうだ。お金をかけず、徒歩か、めいぷる〜ぷにより移動しているということだろうと聞いている。

アンケート結果では、広島に来た時に原爆投下について責められるのではないかと気にしているとの記載があったが、私が現役の頃にもそのような声は随分聞いたし、広島に来てみると、責められることがなかったので、心豊かに広島に滞在することができたという声もあった。何年経ってもこのような思いを持って来る方がまだいると、改めて認識した。

本川小学校を外から外観を見るだけではいけないとの渡部委員のご指摘があった。長年、東日本大震災の被災地域の方をお迎えしており、先日も同行して本川小学校に行ったら、展示技法は十分ではないが、資料館よりも被爆当時の状況がつぶさに体験できる。本館閉館中は、このような場所が必要だとの意見が多かった。資料館はきれいになりすぎていて、そのような雰囲気ほとんど感じられない。本川小学校や袋町小学校で体感できる雰囲気を、資料館の本館の中にもつくることは必要ではないかとの意見があった。これは東日本大震災被災地から来られた人のほとんどが言われることである。今日午後、石巻市の大川小学校の件について仙台高裁の判決が出る。大川小学校と門脇小学校をどう残すかということが石巻市の大きな課題となっている。当初は全て解体しようという考えだったが、本川小学校や袋町小学校を見せたところ、これらを残すべきだという方向付けがなされ、資料室も設けることが決まった。広島の訴える力というものは、そういった所にあるんだということを確認した。

## ◆ピースツーリズムを進化させていくための取組について

### 2 ルート周遊体験調査の実施について

(渡部委員) 平和インターンシップでルートを回っていただくのに、どのように学生が事前学習するのか、ガイドが付くのか付かないのか、スマートフォンを持って歩くのかどうかなど、歩き方によって、反応が違ってくるのではないかと。学生の意識に残るかどうかも違ってくる。ガイドは、ある程度知識と経験を持った、自分の大学の上級生がするというのも考えられるのではないかと。色々な組み合わせによって、この取組は幅が広く、学生自身に返ってくる効果も深いものになるので、どのように歩いてもらうかは色々な観点から検討してはどうか。

(古谷委員) とてもよいアイデアだと思うが、具体的にどのように進められるか関心がある。

(平尾委員) もちろん、しっかりと事前学習と事後のフォローアップができるにこしたことはな

いが、今回の位置付けはモニタリングだと思うので、今後使われる形でまずやってみることで、やはり事前学習は必要だとか、事後にこのようなフォローをサイト上でもやった方がよいというようなことが挙がってくれば、今回はそれでよいのではないか。まずはやってみる。やった結果をもとに、プログラムやコンテンツを充実させていく。毎回、今回はこのような条件下で実施したということを残しておくことが大事である。

(辻委員) 市立大学の平和インターンシップについては、3時間でこのままルートを回ると、ここは良かった、ここは悪かったと、収斂してしまう。可能性を追求するのであれば、モニタリングはもう少し自由にして、時間が足りなかった、事前学習はあった方が実相が分かる、などの声を得られるようにした方がよい。外国人によるルート周遊の中で、自転車のコースについては、交通が危ないところがあるので、サイクリストにこの道の方がよいなどの意見をもらってルートを設定するなど慎重にした方がよいと思う。細心の注意を払って、この道が交通量が少ない、爽快に走ることができるなど、プロの目で見てもらって、少し時間をかけて設定した方がよい。市民に検証してもらうということも、予算のからみはあるだろうが、やった方がよいと思う。

(津村委員) 平和インターンシップについては、市立大学の協力が得られてよい周遊ができればと思う。少し外れるが、原田座長から資料館に関するご意見があったが、資料館の建物自体は被爆建物ではない。本館は昭和30年にできたもので、古いものの戦後の建物である。東館は平成に入ってできた、もっと新しい近代的な建物である。展示の中身で被爆の実相を分かりやすくして理解していただけるようにするための施設である。本館が工事中で、被爆の実相の部分が東館の1階に仮設展示にあるものの不足しているとの声をたくさんいただいており、被爆の実相の展示を増やす方向で多少の予算も確保し、今年の8月6日までに何らかの形で展示の拡充をする検討を進めている。当時の被爆の痕跡を目の当たりにしていただくことは大事だと思っており、そのために被爆建物の保存・継承というもう一つの取組があり、市所有の建物は市が責任を持って保存し、民間の建物はもっとたくさんあるが、それもできるだけ保存・継承をお願いするという要請活動はこれまでもやっており、今後も引き続きやっていきたい。できるだけ、被爆を経験した「もの言わぬ証人」である被爆建物や被爆樹木の保存・継承に努めていきたい。

(水本委員) 平和インターンシップは授業の一環で行うものである。3時間×7回の授業を行うが、ピースツーリズムのことを勉強させたいと思い設定した。広島市が1年かけてピースツーリズムを検討しているがどう思うか、設定されているルートを、3時間しか授業時間が無いので歩ける範囲は限られるが歩いてみて、自分がプランナーだとしたらどう考えるかということについて投げかけて、意見を聞こうというのが授業の目的である。実際に一般の旅行者がピースツーリズムを体験する時にも、必ずしもポイント毎に十分なガイドがいるとは限らず、資料を見ながら自分で歩くことが多いと思うので、できれば学生に資料を見て勉強してもらい、ピースツーリズムのプランナーになったつもりで意見を言ってもらおうと思う。情報科学部、芸術学部、国際学部の学生がいるので、情報科学部の学生はインターネットに詳しいだろうし、芸術学部の学生はアートに詳しく、国際学部の学生は平和に関心があるだろうし、それぞれの目線をピースツーリズムにどう活かせるかという課題のつもりでやってみようと思う。5人の社会人には、ピースボランティアと証言者が含まれており、そういう方にも回ってもらって、あく

まで授業の一環なので、ピースツーリズムをどう考え、どう活かすのか考えなさいという課題のつもりでやっている。お客様として来てもらうつもりはない。今日の意見も活かしていきたい。

(阪谷委員) 渡部委員からご指摘のあった本川小学校が土曜日のため敷地外からの外観見学になっていることについては、教育委員会にどうにかならないか掛け合っている。特別に許可していただけることになれば、学生の皆さんに見ていただきたい。本川小学校平和資料館を見ただけは価値のあることなので、調整しているところである。

(水本委員) 仮に見ることができなくても、なぜなのか、どうしたらよいか考えさせようと思う。全てが勉強になる。

(原田座長) 先ほどお話ししたことの補足として、資料館の東館の建設をした時に色々な議論をした。アジア競技大会を広島に迎えるということで、本館の展示だけでよいのかという議論があり、今までの平和記念館を改築し、現物資料の本館に加えて、戦前の広島と被爆後の広島の訴えを打ち出すということに重点を置いた。館長として一番悩んだのは、果たして、アジア競技大会でアジア各国から広島にやってくる人たちにどのような構成がよいのか。できあがるまでには、色々な意見があった。戦争の加害の責任を出す、出すべきではないなど、色々な議論があり、市民や被爆者の思いをしっかりと受けとめようと協議を重ねながら、東館をオープンした。オープンした時に、ほとんどの方から理解を得ることができたのは、非常に印象的だった。大会組織委員会では、平和公園にできるだけ足を運ばせたくないという本音があったのだと思う。資料館が被爆当時の 20 枚のパネルを作っていたが、最初は 2 枚しか選手村に出せなかった。最終的には 20 枚にしたが、組織委員会には抵抗があった。しかし、選手や役員として広島にやって来る以上、ぜひ資料館に足を運んでほしいという気持ちを持っていたので、色々な形で事務局と折衝を重ね、結果的には 7 割くらいの方が来てくれたと思う。このことにより広島のメッセージを伝えることができた。

#### ◆スマートフォン向けコンテンツの作成状況

(渡部委員) 私はスマートフォンを使わず、スマートフォン向けコンテンツの作成状況と言われても分からない。こういう人もいる。どうしたら、らくらくフォンで簡単に情報を得ることができるだろうか。若い人がスマートフォンを使って世界を自由自在に歩いている一方で、そこからすっかり抜け落ちる人がいる。その人たちに、どうここへたどり着いていただくかということも考える必要があるのではないかと。抜け落ちる人に紙で紹介するというのではなく、どうやって救い上げていくか。あと、写真に全く人が出ておらず、建物ばかりである。広島に来て、資料館も心に残るだろうが、広島で会った人が心に残る。人の顔が全くなく、バーチャルな情報提供に終わっている気がする。

水本委員が思っている以上に、市立大学の 1・2 年生は広島の中を知らない。建物を知らず、中身を知らない。本川小学校のことは全く知らないかもしれない。なぜ確信的にこのようなことを言うかという、私は毎年のように市立大学からインターンシップを受け入れているからである。1~2 年かけて通ってくれる学生を見て、実感していることである。平和インターンシップを受講するのは 1・2 年生なので、おそらく何も知らない学生が巡ると思わないといけな。そこでピースツーリズムについてという課題を出されたとき、何も知らない学生にとつ

てどうなのか。

(古谷委員) タブレットなどで容易に情報を見られるとなると、ガイドの立場がないが、初めて来て広島のことを知りたいという人にはとてもよいものだと思う。自分達は画面に出ないコンテンツを作っていきたい。

(水本委員) 利用者が回ってみて、自分はこのようなルートが良いと思うと、提案ルートを発信できるとよいのではないか。モデルコースだけでなく、このように巡るとこんな発見があったということ、市民でも来訪者でもよいのでネットで発信できるような仕組みがあるとよい。

市立大生については、多くは期待してはいないのだが、選択科目であり、1・2年生が中心であるが、3年生の履修もある。ピースツーリズムは勉強した人しか参加できないものではなく、知らないけど勉強したいというのもよいと思っており、そういう寛容な気持ちで接したい。

(平尾委員) ここで出てくるのは最低限のインフラであり、ここに全てを込めるのは難しいと思っている。サイト内で人に出会えて、ここで体験ができるのであれば、わざわざ広島には行かなくていいということになってしまう。あくまで最低限の地図等の要素がコンテンツ内にあり、現地に行くと人に会えたり、体験ができたりということをも $+\alpha$ で考えればよいと思う。スマートフォン上の要素は、地図に付随するものという考え方でよいのではないか。

この懇談会は開発会議だとするならば、実際に使っていただくということが、次に必要である。すごくよいサイトができたが、知っている人がいないというのでは意味がない。これができたあかつきには、アジアの人なのか、他の地域の人なのか、よく勉強している人なのか、広島のことを知らない人なのかといったことも含めて、どのような人に届けるのか、どのような手段であればその人に届くのかということを考える必要がある。埋もれているサイトやアプリは世の中にたくさんある。このサイトを埋もれさせないよう、どこかで議論しないといけない。

(辻委員) 正確に伝えるということが大切だと思う。資料に「MUST SPOT」と書いてあるが、作る時にはプロに頼み、その表現が適切かを見てもらわなければならない。スマートフォンでも印刷物でも、見た人にとって表現が正確でないと面白くない。作る時には注意し、ダブルチェックはした方がよいと思う。

(古谷委員) 「MUST SEE SPOTS」とするのがよい。

(津村委員) 情報へのアクセスの仕方、ページを見る順番など情報を得る思考は、日本人と外国人では違うと聞いたことがあるので、英語版も作られると思うが、次のページへの行き方、開いている画面の中でどのような情報をどうコンパクトに伝えるかといった伝え方・画面の構成について、言語ごとに工夫がいるのではないか。掲載するコンテンツについて、平尾委員の言われる、インフラとして地図などある意味必要最小限のものとする考え方もあるが、行く先々のスポットでうまく市民と交流できるような仕組みができればよいのだが、建物だけに行くケースもかなりあると思う。ITを使うことにより、実際にある建物も見てもらいながら、AR等も活用して、被爆前にはここではどのような営みが行われていたのか、1945年8月6日8時15分には何が起こり、そこにいた人はどうなったか、その後はこの建物がどのように使われ復興に寄与してきたかといったストーリー性のある内容を盛り込んでほしいと思う。バランスも必要だと思っており、そのコンテンツづくりは一緒になって考えたい。あまり盛り込みすぎてもいけないだろうし、バランスは考えるべきである。

(阪谷委員) スマートフォン向けコンテンツについては、インフラ整備として進めているが、一



方でアナログを重視する方に対してどう対応するかと言うことは課題として受け止めている。

平尾委員の言われた誰にどのような手段によって届けるのかということについては、きちんと議論すべきだと考えている。表現が適切か、正確かということについては、観光施策を進める中で重視していることであり、外国の方に対しては特に気を付けたい。

水本委員からお話のあった、提案ルートを発信できるようにしたらどうかということについては、私もそう思う。もう少し取組を進化させていく中で、色々な方からこんなルートがよいといった情報を集める方法を、この懇談会で議論させていただければと思う。

このスマートフォン向けコンテンツの内容は調整中だが、どこかの段階では皆さんに実際のものを使っていただけるようにしたい。

外国人によるルートの周遊について、在住外国人に回ってもらうと既にご存知の方ばかりなので、その効果がどうかということについてと、市民の皆さんに見てもらふことについて、懇談会において整理していただいた方がよいと思う。

(渡部委員) 外国人については、長く広島に住んでいる方と、最近広島に来られて資料館と平和記念公園くらいしか知らないという方の2グループに分かれて巡ってもらって、それぞれの方がどのような感想を持たれたか比較をするという方法もあるのではないかと。

欧米からの方に偏らず、最近ではベトナムや中国などから来られる人も多いので、グルーピングして回ってもらったらどうか。

自転車で回るということについて、広島市内を走るのを危なく感じる場面も多いので、要注意だと思う。事故が起きる可能性が高い。ぜひ組織内で横断的に検討してほしい。

(前田委員) 住んでいる人に聞いてもとあまり得られないかもしれないと思いながらも、住んでいる人だからこそ知り合いを呼んで広島の案内をするようなこともきっとあると思うので、そのような二次的な情報も集めると初めての人はどうだったのかという情報も得られるのではないかと。

(辻委員) J E Tプログラムの話があったが、年間3~4千人くらいの方が来られており、この人達を活用するのが一番よいと思う。東京に集結して説明を受けた後、各地に散らばる時、広島はこのような所なので、ぜひ広島に来よう案内するとよい。J E Tプログラムで来ている先生方は夏休みも冬休みもあり、充分時間がある。ぜひ友達を連れて広島に来てくださいと案内し、来た時には例えば通訳ガイド協会で3時間の平和学習の講演をし、その後それぞれで回ってもらい意見をもらおうと、かなり集積したものができると思う。海外からのF A Mトリップはなかなかできないと思うので、J E Tプログラムで日本に来ている人に協力してもらおうとよいのではないかと。

(古谷委員) ひろしま国際センターからの依頼で、広島の復興についてパワーポイントを使って1時間の講演をするという仕事をいただいている。色々な国の技術者が参加している。J I C Aの関係である。ブラジルから神楽を勉強に来られた方、ウズベキスタンからの発電所の技術者などに話をしたことがある。長期の滞在で時間があると思う。J I C Aやひろしま国際センターも覚えておいてほしい。

#### ◆懇談会意見・提案への今後の対応について

(原田座長) 別紙2の意見・提案一覧表には、昨年の1年間にご議論いただいたものが挙げられている。これをどのように進めていくか、与えられた課題である。問題点や課題を出しておしまいというのではなく、次のステップに進むための議論を進めていきたい。

(事務局) いただいた114項目の意見・提案について、それぞれの重みももう少し整理をしていかないといけないと思っている。また、観光政策部で対応できるものもあれば、全庁的に取り組む必要があるもの、外部に対してお願いをしていく必要があるものもあるので、事務局において整理をする必要があると考えている。今はまだ一覧という形で提示しているだけになっているが、同じような意見をまとめるなど分類も必要だと思っている。その作業をしていきたい。

(原田座長) これらを具体化するためには、市役所の中の各セクションと協議し、具体的な事業に落としていくことが課題であり、しばらく時間をいただいて、事務局で整理したものをお示ししたい。

(辻委員) 現場を見たとき、表示が古くなっていたところがあり、改修をしないといけない。広大の旧理学部校舎に何も説明板が無いなど、課題が浮き上がったはずである。これらの全部をただちに改善しろということではなく、今年はこれとこれを改善するなど、見える形にしていき、ずっとスマートフォンだけで情報を得るのではなく、訪れた方が分かる形にすることも並行して進めていただきたい。

(原田座長) それがベースになるだろう。

(辻委員) せっかく見に行ったのに、説明板が古い、無いでは意味が無い。お金もかかるので全部はできないだろうが、少しずつでも進めてほしい。

(原田座長) 少しずつでは何年かかるか分からない。この事業をより具体的に示していくために、前に進んでいくよう努力していきたい。

(渡部委員) 本当に今しなければならぬことは何なのか。114項目が並んでいるが、それぞれ深さや幅の広さが違う。この1年という限られた期間の中で、喫緊の課題は何か、実現可能性が高いものは何かなど、優先順位を決める方法がいくつかあると思うが、そのたたき台をこの懇談会で作り、これから進む道が見えるようにしたらどうか。

(原田座長) そのとおりだと思う。事務局ともその議論をしているが、今日までのとりまとめには至らなかった。

#### ◆その他意見交換

(原田座長) 114項目のほかに加えたらよい意見があれば発言していただきたい。

(前田委員) 2点補足したい。アンケート調査において、団体旅行で来ていたので答えてもらえなかったケースがあったが、団体旅行はツアーガイドや添乗員がいるので、そういった方々からヒアリングすれば、何がポイントか、何がよくなかったかなど、ある程度見えてくるのではないかと。スマートフォン向けコンテンツ作成について、トップページの例えば MUST SPOT を押すと、その周辺の平和関連のもの、文化関連のものなどが浮かび上がってくるんだろうと思いついていた。ルートだけに限らない、フレキシブルな展開の仕方を考えていただきたい。

(渡部委員) 広島にはアニメーションフェスティバルがあり、アニメーションを使う方法は色々あるのではないかと。「この世界の片隅に」は非常にヒットして、時代考証もよかったので、上

手に使って、感じていただくことができればよいと思う。

前田委員の言われたツアーガイドは、すごくよいポイントだと思う。ツアーガイドがどのように説明しているかは大事だと思うが、平和公園を歩いていても、私の知らない言語でのガイドは聞いても内容が分からないので、ツアーガイドの皆さんからのヒアリングを、予算を組んで実施してほしい。

(古谷委員) 別紙2にある夜間の取組について、夜神楽公演をやっている。夜神楽を見ていると新幹線がなくなり、必ず泊まることになり、滞在時間が長くなるということを言っていたら、昨年県立美術館の地下において4回開催された。それがうまくいったので、今年は40回やることになっている。翻訳はネイティブのアメリカ人と行っている。昨日、テレビでも紹介されたが、実は集客に苦労している。チラシをもってきたので、ぜひ外国人の知り合いがおられたら誘っていただきたい。県の事業で、4回から40回へと一気に増やしすぎていると思うが、もう始まったことである。見ていただければ、本当に素晴らしいとの感想が返ってきているので、ぜひ皆さんの人脈で誘っていただきたい。今週末、土・日は会場を満員にしたいと思うので、ご協力をお願いしたい。

(水本委員) 外国人の調査について、今回の調査はある一定の場所での一定の時期のサンプリングなので、全体を充分反映しているかは分からないが、例えば、資料館の年間の来館者の国籍別内訳は分かるのだろうか。そのような通年のデータがあれば、そのデータとサンプリング調査との間に乖離があるところについては補充調査をするとよいのではないか。

(平尾委員) 基本的な姿勢として、どのようにして、広島でこのようなことが始まったことを知らせ、一緒になって作っていくかが大事である。この懇談会は、平和に関心があり、平和に関する活動をしている人の集まりであるので、この懇談会でできたものを、これができました、使ってねではなく、まだ余白を取っておき、市民が提案したツアーや、市民が企画した座談会なども加わってくることにより、一緒に作るサイト、一緒に作るピースツーリズムであるということを残し続ける、ずっと成長し続けるものにすることが大事ではないか。その例として、「長崎さるく」や「まいまい京都」といった市民自らが作っていくツアーのコンテンツが参考になると思う。

(辻委員) もう1回振り返り、現場に立ち、外国人の目からはこのように見られているだろうというような外からの見方を大切にすべきである。これは知っているだろうとか、これはできないなど決めつけるのではなく、114の項目があるが、できるところを1個ずつ整理すると、自ずから収斂されてくると思う。平尾委員の言われるように、これは完成するものではなく、ずっと続けていかないといけないので、常に原点に立ち戻り、外からどう見られているかを意識すべきである。

(津村委員) 辻委員や平尾委員が言われた、原点を大事にすること、持続的に成長させていくことは大切だと思う。この懇談会を通じて言われていた、来訪者目線、市民との協働をリマインドさせていただいた。水本委員が言われた資料館入館者の国籍別データは、券を販売する時に国籍を確認しておらず、持っていない。

(前田委員) 国籍別でなく、言語別ならば、音声ガイド貸出数により把握していないか。

(津村委員) それはあると思うので確認する。外国人の周遊について、広島市には留学生会館があり、来られたばかりの留学生であれば、広島のことを知らない方なので、周遊してもらおうと

よいのではないか。私の方から口利きはできる。

(阪谷委員) 114項目にわたる意見・提案について、5月の連休以降に、一度担当部局を集め、状況を説明し、関係部局も一緒になって考えていただく環境を作りたい。114項目のうち半数以上は観光政策部が先頭に立ってやらなければならない項目であり当然頑張るのだが、その中でも受入環境の整備で、説明板がない、修復しないといけないという点について、具体的な箇所も現地調査によりいくつか上がっているが、それ以外にもたくさんあるのではないかとと思われる。それらを誰からどのように情報提供していただきながら把握し、その結果知りえたものについて所管課と話してどの程度改善するかという取組の展開を考えなければならず、その具体策をどうしていくかという課題があり、皆さんと話しながら進めたい。

(原田座長) この2ヶ月の間に色々な意見をいただいている。大きいものも小さいものもあり、すぐできるものもあれば、難しいものもあるが、報告しておきたい。

市役所の中では、電話の待機音には色々なものがあるが平和の歌に統一してはどうかという意見もあった。現代美術館は朝10時に開館するが、10時にならないと電話に出ず、開館時間ではない旨の自動応答になっている。9時から電話をとるべきではないか。これは小さいことのようにだが、おもてなしに繋がるのではないか。

資料館の中で、現在形の動きが欲しいとの意見もあった。被爆の状況や、その後の広島市の取組については展示されているが、今の世界情勢がどうなのかという視点がいるのではないか。以前は、掲示板を置いて、例えばフランスが核実験をすればその新聞記事の切抜きを掲示するなど、今の世界情勢も伝えてきた。各国から多くの来館者があるだけに、現在形で世界の情勢を伝えるものがほしい。その一つの例として、昨年の核兵器禁止条約に関する今の動きについて、190カ国ある中で今どこまで進んでいるのか、国内の議決がなされたのか、日本を含めて最初から条約に加盟していない国についてなど、今の情勢を視覚的に伝えることが大事ではないかとの意見も出ている。

広島駅に降りた時に広島をどう受け止めればよいのか、そこが大きな課題だとの意見もいただいた。折り鶴の時計もできたがそのイメージは誰も知らないようだ。表示も不十分だ。広島駅で降りた人に対して、まず平和を希求する都市であると伝えてはどうか。このような仕掛けがあってしかるべきではないのか。

ピースボートもそうだが、色々な形で平和を希求する活動を始める人がたくさんいるが、その受け皿がほとんどないという意見もあった。よく承知していないが、例えばこれに参加した人には平和についてもっと自分で勉強したいという思いが強い。ピースボートを終えた人は、自分がどのような行動を起こしたらよいのか、何をすればよいのかを考える時、ボランティアということでは難しいのではないか。自分が生活ができるようなベースを作り、専門的な知識を吸収して、多くの人に伝える媒体として活動していきたいと思っている。これも課題として受けとめ、システム化が必要だと思う。被爆体験伝承者も増えているが、伝承者の研修を終わって独り立ちさせた後も今の情勢を十分に伝えることが必要ではないか、それにより、広島メッセージを伝えることになるとの意見もあった。

高校生の平和大使について、長年市民の団体により活動が行われており、今年も平和大使が決まる頃である。問題なのは、平和大使は8月にジュネーブ（国連ヨーロッパ本部）に行ったらそこで卒業であり、後の道が開かれていない。それまで彼らは一生懸命に勉強しながらも、

次につなげる方策が充分でないとの意見もいただいた。

今日、午後から石巻の大川小学校の判決が出る。石巻市などの職員や関係者は大変複雑な思いで色々考えておられる。継承ということについて、広島の良い面も悪い面も関心を持って見ているので、我々も今まで以上に努力していかないといけない。小学校を残すか残さないか議論になっていたが、このほど残すことになった。現物の訴える力は非常に強い。東日本大震災の被災地から広島に来られ、本川小学校や袋町小学校を見て、自分達も残そうという意気込みをもっていただいたことは心強いと思うし、広島がよい見本となっていくのではないかと思う。

大きいものも小さいものも一つ一つ整理をしながら、今年度の課題を実現するための努力を進めていきたい。

(平尾委員) 最初に阪谷委員から話のあった、市長が予算措置をしながらやっていきたいと言われたことはありがたいと思う一方で、市民を巻き込んでいくということを考えると、すごく長期的な話では、クラウドファンディングなどによって、市民自らも出資することで、自分達のものにしていかないといけないのではないか。そうでないと、行政がやってくれる、市が何かやっているということになりがちである。平和を一般化、日常化していくために、どうすればピースツーリズムによってホテル業界や観光業界が潤っていくのかということも含めて考えていき、そこに予算を出資していくとか、サイトについても協賛金や広告収入ということを考えていくと、関心が高まり、よい意味で口出しせざるを得なくなると思う。一般的な意見、私達の日常生活からの意見もちゃんと踏まえ、長い目で考えるには、お金を出すということが、自分達の意見をしっかり言って、それを踏まえてもらうための一つの手段になるのではないか。平和を特別なものにし過ぎないということも大事ではないか。

(渡部委員) 私の事務所では、広島の被爆の実相について学びたい人に向けて、被爆体験継承塾というものを1年かけて開催し、16名の塾生が巣立っていった。今年度も第2期をスタートする。若い人達が「自分で平和について発信したい」と言われている。一番の学びの場になるのは、自分でガイドをしてもらうことである。先日は、市立大学の4年生の学生にスウェーデンの高校生を案内してもらった。そのために、自分で案内するポイントを歩いて、自分で英文の原稿をつくり、準備する。そして実際にガイドを体験し、その反応を得て成長していく。平尾委員が言われた、市民が自分事としてピースツーリズムに関わってもらうためには、一人一人が発信をする人になるというしかけが、一番そのきっかけになるのではないか。被爆体験継承塾は、あくまで自分自身が行動するための行動基盤を養う場としており、このように行動してくださいということは一切言っていない。これは大事なことだと思う。やり方は自分で考え、トライアルとしてやっていく。それをするための最低限の知識や経験を授け、行動基盤を養う場というのは、今広島に必要とされているのではないか。それを作っていくことも、ピースツーリズムが持続可能なものとして発展していくことに繋がるのではないか。

(原田座長) 懇談会の意見・提案をどう具体化していくかということが大変大きな課題であると同時に、どう進行管理していくかということがこの事業がうまくいくかどうかの鍵となる。今後とも意見をいただき、次のステップに早く進んでいきたい。さらにご意見などがあれば、早めに事務局にご連絡いただき、それをもって現段階での最終的なまとめとして、事業の実施に入りたい。